

話題のひと

学校で朗読活動を続ける

コ・ムトーさん



1945年5月23日、山形県出身。69年、いずみたく氏主宰のオールスタッフプロダクションに作詞家として所属し、「雲よ風よ空よ」(ペギー葉山)や「天使の詩」(郷ひろみ)など多数作詞。「妻たちの海外駐在」(文芸春秋)や「青いガラスとエメラルド」など、著書やミュージカルの台本など多数執筆。朗読講演の申し込みはウェブサイト「心の宅急便」<http://www.kokorono-takkyubin.com>

子どもたちの間のいじめをなくしようと、自宅がある横浜市を中心に全国30の小中高校を訪ね、自作の詩の

朗読活動を続けてきた功績が認められ、「2009年度神奈川県ポラントリー活動奨励賞」を受賞した。

エッセイストでミュージカル作家。外国育ちの娘2人が帰国後、学校で同級生からいじめを受けた。「人はみんな違うはずなのに、

友達にならない??って話しかけて

日本ではどうして同じことをするよう求められるの」。心を閉ざした娘たちが立ち直った時にできることを考え続けてきたという。

年に、93歳で「」をした。「病気がやわいで体が不自由になっても紙人形を作り続けた母の生き方と、いじめを乗り越えた娘たちを歌にして、生きることのすばらしさを伝えたい」。母親の大きな存在感と娘へのいとおしさに背中を押されるよう

絵手紙を基に自身が作った詩を、メンバーが奏でるハープの演奏を交えて語る。「前向きになれた」「自分から声をかけるようにしたい」など、朗読に感動して届いたメッセージは9千通以上。特にうれしいのは「いじめは無関係と感じていた

88歳で紙人形作家としてデビューした母親のマサコ・ムトーさんを2006

に、「心の宅急便」と名付けた朗読活動を、3人の友人と07年に始めた。

「友達にならない?」いつか君は言ってくれた『いよいよ』サラリと答えたけれどうれしかったんだ。『ある少女からもらった